

星城

Seijoh Art Museum

美術館

vol. 3



創立者 石田鑑徳先生の生誕百周年に寄贈
(韓国・朴春成氏書)

書特集

創立者石田鑑徳先生は、幾多の場面で「建学の精神」を具現化し、学生育成のためにいくつかの言葉を一つの「書」として残されました。「仰星」星を仰いで若人に希望を抱かせ、「彼我一体」や「ここをしも…」などは座右の銘として、刻まれてまいりました。

今回は、本学園と関わりの深い書家の方々や外国(韓国)との交流の中で寄贈された作品などを掲載いたしました。また、本学園教職員で平成19年度日展初入選の田口勢望氏のご紹介をいたします。

■ 創立者「石田鏡徳」先生の書



「仰星」

彼我一侍
るる誠極書



「座右の銘」

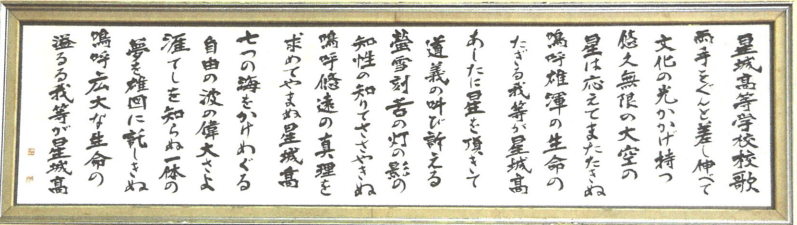
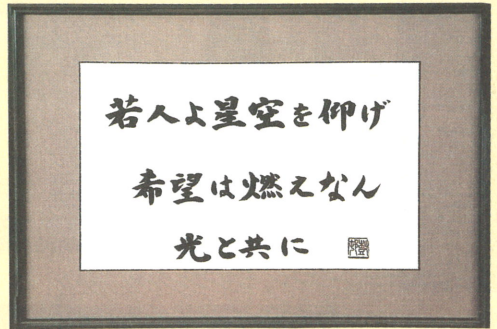
ここをしも
悟りの峰と
想ひしは
迷ひに降る
始めなりけり
石田鏡徳

■ 学園 星城懇話会理事 樽本樹邨先生の書



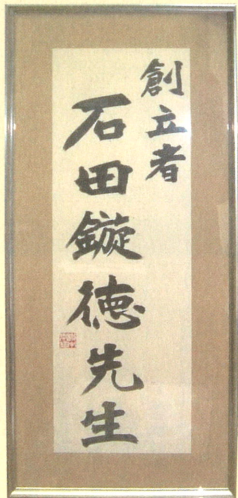
樽本樹邨先生
星城懇話会理事
日展評議員
全日本書道連盟常務理事
謹慎書道会副理事長
中部日本書道会副会長
中京大学名誉教授

「創立者の言葉」

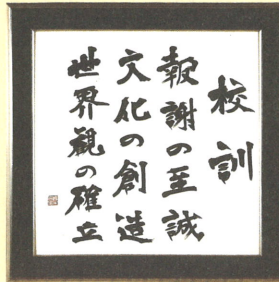


「星城高等学校 校歌」

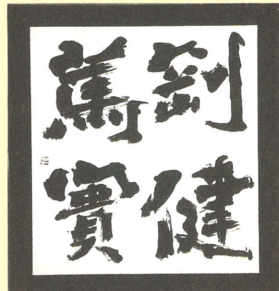
創立者「石田鏡徳先生」



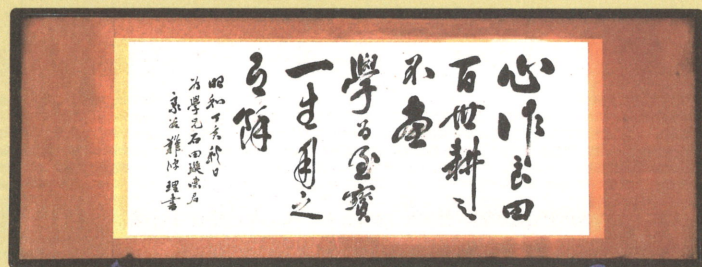
「校訓」



「剛健篤実」



■ 学園関係者の書

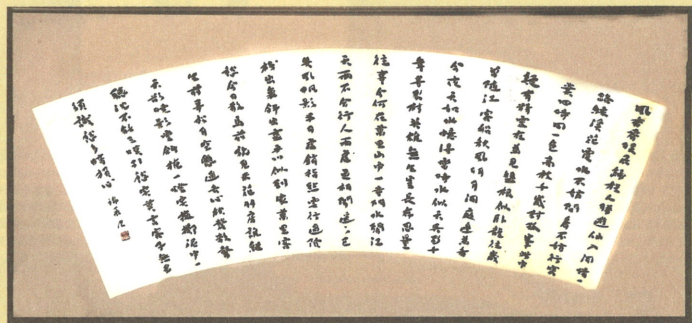


創立者へ

早稲田大学恩師
難波理二郎氏より
贈られた言葉

心作良田
百世耕之
不盡
学為屋寶
一生用之
有餘

昭和丁亥秋日
為学兄石田鏡徳君
豪谷難波理書
(大意)
心に良田を作せば
百年之を耕しても
尽きず
学びて屋宝を為せば
一生之用いて
余有り
昭和二十二年秋日



大洲瑞展氏
(本学園旧教職員)

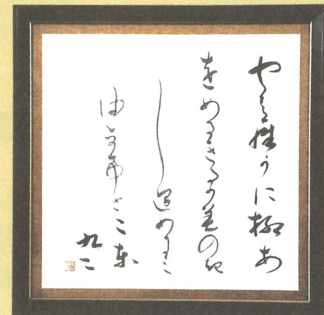
唐雍陶の詩
風香春暖展歸程全勝遊仙入洞情一
路綠淡花覆水不妨閑看不妨行蜜
葉四時同一色高枝千歲對孤峯此中
疑有精靈在為見盤根似臥龍往歲
曾隨江客船秋風明月洞庭邊為者
今夜天如水憶得當時水似天吳蜀千
平等界村英雄無主直長存思量
往事今何在萬里山中一寺門水閣江
天雨不分行人雨處更相聞遙遠已
失風帆影半日虛銷積點雲行過險
棧出囊斜出盡平川似到家萬里客
愁今日散馬前初見米囊花竹房誰繼
生前事松月空懸過去心秋聲數聲
天欲晚影堂斜掩一燈深拋拋泥中一
聽況不能三嘆引愁深暮言客子無愁易
須識愁多暗損心



「燈」
尾之内燕峯氏
(本学園旧教職員)

石川啄木
「握の砂」より
やはらかに柳あをめる
北上の岸辺目に見ゆ
泣けとこぼれに

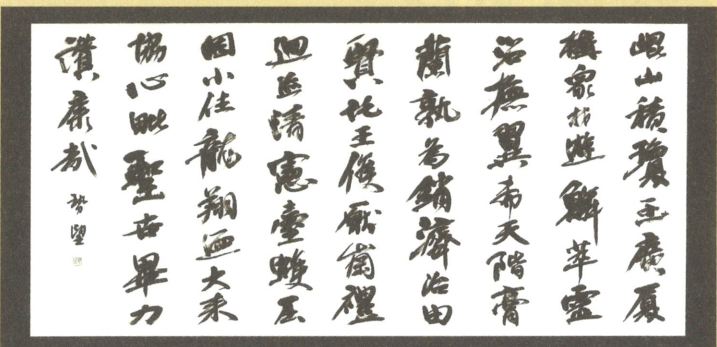
近藤証一氏
(本学園旧教職員)



田口勢望氏 (田口勝也先生 — 本学園星城高等学校教職員)
日展入選 (2007年)

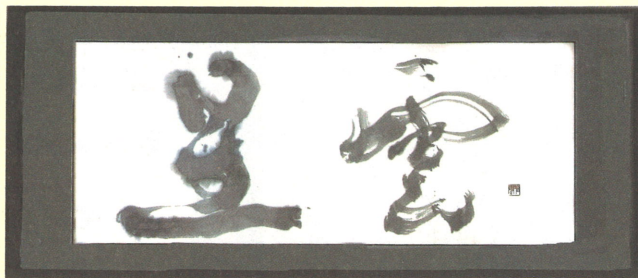
内容 待御中央王元況に贈る

題材は「文選」の中の藩正淑の漢詩で待御史王元況に贈ると
いう五言古詩。書体は中国宋代の代表作家、蘇東坡。9行に表
現し、文字の大小・行間の空け方、墨の潤濁にも留意した。

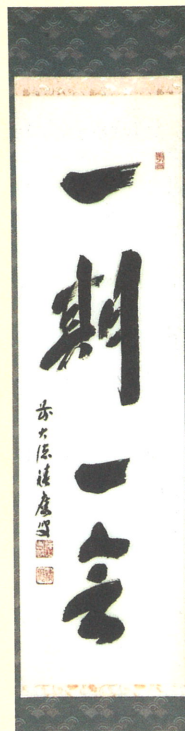


■ 星城美術館所蔵の「書」

「星雲」
小島碧雲氏
(独立書人団常任理事)



「二期会」 福本積広氏 (亀岡市招春寺住職)



吉田桂秋氏
(中部日本書道会 元理事長)

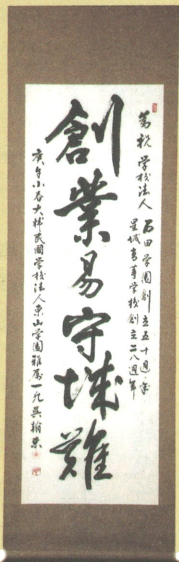


大森巻山氏

「落葉松」
からまつを過ぎて
からまつをしまじみと見き
からまつはさびしかりけり
たびゆくはさびしかりけり
北原白秋(水墨集より)

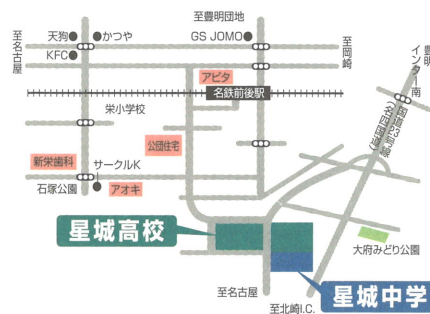
■ 韓国姉妹校からの寄贈作品

「創業易守城難」
※校名に因み本来「成」とあるのを「城」として書かれました。
呉翰東氏 寄贈 (韓国姉妹校東山学園元理事長)



「四法亭」書画掛軸
宋賢淑氏

七言絶句
蟠根入地蛰龍知
壮志凌雲又一奇
大節分明無曲性
此心曾與此君期



〒470-1161 豊明市栄町新左山20
Tel: (0562) 97-3111 Fax: (0562) 97-2015
Url: <http://www.n-ishida.ac.jp/>

星城美術館
Seijoh Art Museum

<星城高等学校内>

学校法人名古屋石田学園

星城大学・大学院 / 星城高等学校 / 星城中学校 / 星の城幼稚園
星城大学リハビリテーション学院 / 名英図書出版協会
協力 星城高等学校同窓会 星城懇話会